

昨年『営繕論—希望の建設・地獄の営繕』を上梓された、
量を担った技術から日本の近代建築の行く末を想う建築家・内田祥士氏。
今夏に重厚な博士論文「アナトール・ド・ボドーのシマン・アルメ建築生成に関する研究」をまとめられた、
前近代と近代との断絶を鉄筋コンクリートという素材に着目して見直されている建築家・後藤武氏。

この度、一見全く接点がない二人の論客を迎えて、
お互いの近著について忌憚なく語り合っていたく機会をご用意しました。

近代建築の出口を考える内田氏と、近代建築の入口を考える後藤氏。
日本から世界を考える内田氏と、世界から日本を考える後藤氏。
電線を考える内田氏と、フライング・バットレスを考える後藤氏。
たしかに、真逆ともいえる関心のもとに近代建築を考えるお二人ですが、
しかしお二人とも技術に着目して近代建築の意匠を考える点は共通されています。

そんなお二人から様々な話題を引き出されるのは、お二人を最もよく知る建築CG画家・浅古陽介氏。

さらに、若手建築論客の集い「人文建築会」のメンバーがお二人の対談に鋭くコメントを挿し、議論を盛り上げます。

菊香る向寒の夜長に、ライブ感満載のホットな近代建築トークの場へ是非お運びください。

内田祥士×後藤武 対談

電線とフライング・バットレス

技術の意匠論を考える

2018.11.16 [FRI]

18:30-20:00 | 入場無料・予約不要



内田祥士

東洋大学ライフデザイン学部教授

1955年東京生まれ。1978年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1983年増沢建築設計事務所退所。1989年東京大学大学院博士課程退学、習作舎設立。博士(工学)。主な作品に「妙寿寺庫裏」、「東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科実験工房棟(改修)」など。主な著書に『営繕論—希望の建設・地獄の営繕』(NTT出版,2016)、『東照宮の近代』(ペリカン社,2009)など。



後藤 武

(株)後藤武建築設計事務所代表

1965年横浜生まれ。2009年東京大学大学院博士課程単位取得退学。博士(工学)。1998年限研吾建築都市設計事務所入所。1999-2004年慶応義塾大学環境情報学部専任講師。2001年UA共同設立。2007年後藤武建築設計事務所設立。法政大学兼任講師。主な作品に「交差点」、「空の洞窟」他多数。主な著書に『ディテールの建築思考—近代建築の思想を読む』(彰国社,2013)他多数。



司 浅古陽介

(有)NAU建築デザインスタジオ代表

1976年東京生まれ。2001年東洋大学工学部建築学科卒業、限研吾建築都市設計事務所入所(-2003)。2003年有限会社ユアスタジオ設立。東洋大学非常勤講師、法政大学兼任講師。専門は建築デザイン、CG・パース制作。建築家と協働して数多くの設計競技に入賞。日本アーキテクチュラル・レンダラーズ協会広報委員、日本建築学会建築情報学技術研究WG委員、日本図学会正会員。

【スケジュール】

話題提供：内田祥士

話題提供：後藤武

対 談：内田祥士×後藤武(司会：浅古陽介)

コメント：人文建築会メンバー

質疑応答：ご来場者各位より

【会 場】

法政大学大学院棟3階301教室



【主催・お問合せ】

人文建築会 「技術の意匠論を考える」企画担当
uchidagoto1116@gmail.com (担当：種田元晴)